■ 令和6年度第1回 八戸市健康福祉審議会 社会福祉専門分科会 議事録

日 時	令和6年8月29日(木) 13:00~14:10										
場 所	八戸市庁 本館3階 議会第三委員会室										
出席委員	<table border="0"> <tr> <td>間山 路代 委員</td> <td>岡田 圭逸 委員</td> </tr> <tr> <td>東山 国男 委員</td> <td>西野 祐希 委員</td> </tr> <tr> <td>坂本 美洋 委員</td> <td>中嶋 幸一郎 委員</td> </tr> <tr> <td>吉田 守実 委員</td> <td>上田 武男 委員</td> </tr> <tr> <td>吉田 朝子 委員</td> <td>慶長 洋子 委員</td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">以上10名</p>	間山 路代 委員	岡田 圭逸 委員	東山 国男 委員	西野 祐希 委員	坂本 美洋 委員	中嶋 幸一郎 委員	吉田 守実 委員	上田 武男 委員	吉田 朝子 委員	慶長 洋子 委員
間山 路代 委員	岡田 圭逸 委員										
東山 国男 委員	西野 祐希 委員										
坂本 美洋 委員	中嶋 幸一郎 委員										
吉田 守実 委員	上田 武男 委員										
吉田 朝子 委員	慶長 洋子 委員										
欠席委員	なし										
市出席者	<p>佐々木 福祉部長兼福祉事務所長 長内 福祉部次長兼障がい福祉課長 町井 高齢福祉課長</p> <p>事務局：福祉政策課4名 小笠原 福祉部次長兼福祉政策課長 中嶋 副参事(福祉政策GL)、大川 主幹、中村 主査</p> <p style="text-align: right;">以上7名</p>										
議 事	<p>(1) 第4期八戸市地域福祉計画の令和5年度事業実施状況報告について (2) 重層的支援体制整備事業実施計画の概要について</p>										
結果概要	上記議事について報告・説明し、委員の了承を得た。(以下、議事詳細)										

◆次第

- 1 開会
- 2 専門分科会長あいさつ
- 3 議事 (1) 第4期八戸市地域福祉計画の令和5年度事業実施状況報告について
(2) 重層的支援体制整備事業実施計画の概要について
- 4 閉会

◆議事録

開会

司会

それでは、ただ今から令和6年度第1回八戸市健康福祉審議会社会福祉専門部会を開催いたします。

本日の司会を務めます、福祉政策課の中嶋と申します。よろしくお願いいたします。

資料確認

司会

それでは、会議に入る前に、本日の資料を確認させていただきます。

【資料確認】

専門分科会長あいさつ

専門分科会長

それでは会議に移りたいと思います。

本日の会議でございますが、委員1名が、急遽欠席になりましたので、本日は9名にご出席いただいております。

【その後、欠席予定委員は遅れて参加に変更】

当審議会規則第4条第2項及び第5条第11項の規定により、会議の成立要件を満たしておりますことをご報告申し上げます。

まず初めに、坂本専門分科会長よりご挨拶を頂戴したいと思います。よろしくお願いいたします。

【専門分科会長あいさつ】

議事1

司会

それでは議事に入ります。

当審議会規則第5条第11項の規定により、専門分科会の会議は、専門分科会長がその議長となることとされていることから、坂本会長に議長を務めていただきます。坂本会長よろしくお願いいたします。

専門分科会長

はい、それでは次第に従い議事を進めます。

皆様のご協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

議事(1)第4期八戸市地域福祉計画の令和5年度事業実施状況報告について、事務局から説明をお願いいたします。

着座で説明させていただきます。

議事の説明に入る前に資料の訂正がございます。

事前送付しております資料1の9ページをお開きください。

事業No.2「介護予防センター運営事業」について、取組実績のマルの1つ目に、8月からとございますが、正しくは令和4年8月からとなります。

また、マルの4つ目に、合計延8,161人とございますが、正しくは、合計延8,160人となります。

続いて、74ページをお開きください。

下段の事業No.117「ゲートキーパー研修の開催」について、取組実績に92人が受講とございますが、正しくは94人となります。

お詫びして訂正いたします。資料の訂正は以上です。

それでは、資料1から資料3及び参考資料をご用意ください。

第4期計画では、「人と人、人と地域が支え合い、誰もが生きがいを持って自分らしく暮らせる地域づくり」という基本理念の下に、4つの基本目標と目標ごとに基本施策を設定し、個別の事業を実施しております。

資料1には、計画登載事業の令和5年度の実施状況及び評価指標数値のグラフ等を掲載しております。

資料2は、計画登載事業について、前回、令和4年度の報告以降に変更があった箇所を一覧にしたものになります。

資料3は、資料2の変更箇所を反映させた後の登載事業一覧となります。

参考資料として、八戸市社会福祉協議会様が策定している地域福祉活動計画の取り組み状況の報告資料を提供いただいております。市の地域福祉計画と市社協の地域福祉活動計画は、相互に連携・協働しながら、一体的に地域福祉を推進していくものです。

参考資料には関連の深い地域福祉計画登載事業の事業No.を朱書きで付記しておりますので、両計画が連携して事業を推進していることの確認にお使ください。

地域福祉計画登載事業の実施状況並びに基本目標ごとに設定した評価指標の達成状況については、毎年度こちらの社会福祉専門分科会に報告し、点検・評価を行っていくこととしています。

議事(1)では、令和5年度の事業実施状況について報告させていただき、委員の皆様の忌憚のないご意見等を頂戴できればと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、事業実施状況について説明に入ります。

時間の都合上、主な事業を抜粋して説明いたします。また、事業実施状況シートの見方について、口頭での説明は省略させていただきます。どうぞご了承ください。

それでは、資料1の8ページをご覧ください。

基本目標1「健康で生きがいのある生活を送ることができる地域づくり」では4施策、35事業を掲載しています。

基本施策1「健康づくりの推進」では、10事業を掲載しております。

9ページをご覧ください。事業No.2「介護予防センター運営事業」について、担当の高齢福祉課からご説明いたします。

それでは、事業No.2「介護予防センター運営事業」につきまして、着座にてご説明をさせていただきます。

事業概要ですが、高齢者自らが健康状態を日頃から意識し、主体的に介護予防に取り組むことができるよう介護予防事業及び認知症予防事業を実施するものでございます。

また、認知症になっても安心して暮らせるまちづくりの拠点として、認知症支援事業を実施しております。

取組実績でございますが、令和4年8月から八戸圏域連携中枢都市圏事業として運用を開始しておりまして、令和5年度の圏域町村の利用者数は59人でした。

次に、各種介護予防事業、認知症予防事業につきましては、体操会では3,665人、集いの場は3,211人、各種介護予防教室135人、各種相談130人の参加がございました。

認知症支援事業につきましては、認知症カフェ等は72人、認知症フォーラムは195人の参加があり、家族のつどいへの協力は6回行っております。

なお、1年間で延べ8,160人が介護予防センターを利用いたしましたが、令和4年度は4,250人でしたので、令和5年度は約2倍に増えている状況でございます。以上でございます。

事務局

次に、基本施策 2「高齢者や障がい者等の社会参加の促進」では、17 事業を掲載しております。

5 ページ下段をご覧ください。事業 No. 12「鷗盟大学運営事業」について、高齢福祉課からご説明の後、引き続き事業 No. 17「障がい者バス特別乗車証交付事業」、No. 19「意思疎通支援事業」、No. 20「障がい者就労サポーター養成事業」について、障がい福祉課からご説明いたします。それでは、高齢福祉課からお願いいたします。

高齢福祉課長

事業 No. 12「鷗盟大学運営事業」につきまして、ご説明をさせていただきます。

事業概要でございますが、満 60 歳以上の市民が入学できる 2 年制の大学を運営し、一般教養科目の他、生活福祉科、園芸科、それぞれの課程に沿った専門科目を学習する機会を提供するものでございます。

取組実績ですが、生活福祉科、園芸科でそれぞれの課程に沿った専門科目の学習を各学年とも学習計画どおりに実施をいたしました。

入学者は令和 5 年度は 62 人でございました。

クラブ活動は、書道クラブやパークゴルフ同好会、民謡歌謡クラブなど 18 クラブございます。

ボランティア活動は年 2 回行い、1 つは種差海岸での外来植物オオハンゴンソウ除去のボランティアで、参加者は 94 人、もう 1 つは、大須賀海岸での清掃ウォークで、121 人の参加がありました。

次に総合美術展でございますが、こちらは 693 人の参加がありました。

芸能発表会の方には 691 人の参加がございました。

なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、入学定員 105 人のところを 80 人に減らし、学生を募集いたしました。

会場の関係もございまして、80 人にしましたところ、非常に余裕を持って授業を受けることができると、学生さんには非常に好評でございましたので、今後も 80 人で実施していく方向で考えてございます。以上でございます。

障がい福祉課長

障がい福祉課です。

それでは、18 ページ上段の事業 No. 17「障がい者バス特別乗車証支給事業」についてご説明いたします。

通称ほほえみ共通バス券と呼んでおります障がい者バス特別乗車証を手帳の交付を受けている 6 歳以上の障がい者を対象に、所得に応じ

て0円、1,000円、2,000円の年間利用料をお支払いいただき、交付する事業でございます。

令和4年度からは、八戸圏域地域連携ICカード「ハチカ」に、ほほえみ共通バス券の機能を付与する形で交付しており、市営バスと南部バスの市内全線での利用が可能となっております。

令和5年度は利用料を無償化して事業を実施したこともありまして、交付者数が4,600人と前年度と比べ423人の増加となっており、新たなバス利用者の掘り起こしに繋がったものと考えています。

次に19ページ上段をご覧ください。事業No.19「意思疎通支援事業」についてご説明いたします。

この事業は、聴覚障がい者等が手話通訳又は要約筆記を必要とする場合に、手話通訳者や要約筆記者を派遣する他、手話通訳者等の養成講座を行う事業でございます。

令和5年度の手話通訳者の派遣件数は599件、要約筆記者の派遣件数は4件で、緊急の依頼を含めまして、全ての依頼に対応させていただいております。養成講座の開催につきましては、八戸市ろうあ協会に委託して実施しておりまして、利用者数は資料に記載のとおりでございます。

令和5年度の全受講者70名中61名が講座を終了しておりまして、修了者の中から9名の方が県の手話通訳者登録試験に臨みましたが、残念ながら今年度は合格者はございませんでした。

次に20ページをご覧ください。事業No.21「障がい者就労サポーター養成講座」についてご説明いたします。

この事業は、障がい者の就労支援の促進を図ることを目的として、障がい者を雇用している又は雇用を予定している企業や、障害者就労継続支援サービス事業所の関係者、市民などを対象に、障がいの特性や障がい者支援に関する制度について理解を深めることを目的に、障がい者就労サポーター養成講座を開催する事業となります。当事業は八戸市社会福祉協議会に委託して実施しております。

令和5年度は、八戸公共職業安定所の職員などを講師として、障がい者雇用の法律と制度、障がいに合わせた就労支援などについて5回の講義を開催しております。

また、講義の他、事業所見学を2回開催しており、講義と合わせて

障がい福祉課長

延べ 149 人に参加いただき、障がいに対する理解を深めていただきました。説明は以上でございます。

事務局

次に、基本施策 3「地域医療体制の整備」では、4 事業を掲載しています。

23 ページをご覧ください。事業 No. 28「救急医療体制整備事業」について、担当は保健総務課になります。

【資料に基づき事業概要と取組実績を説明】

次に、基本施策 4「多様な働き方、生き方が選択できる環境の整備」では、4 事業を掲載しています。

27 ページをご覧ください。事業 No. 35「LGBT 等理解促進事業」について、担当は市民連携推進課になります。

【資料に基づき事業概要と取組実績を説明】

以上で、基本目標 1 に掲載されている主な事業の実施状況について説明を終わります。

続きまして資料 28 ページをご覧ください

基本目標 2 の「個人が尊重され誰もが公平に福祉サービスを受けられる体制づくり」では、4 施策、41 事業を掲載しています。

まず、基本施策 1「自立支援と権利擁護の推進」では、18 事業を掲載しています。

33 ページ上段をご覧ください。事業 No. 45「高齢者虐待防止研修会の開催」について、担当の高齢福祉課からご説明いたします。

高齢福祉課長

事業 No. 45「高齢者虐待防止研修会の開催」についてご説明をさせていただきます。

事業概要でございますが、市民や高齢者施設関係職員等を対象に、高齢者虐待に関して啓発を行うとともに、高齢者虐待の実態と防止・対応上の留意点を学ぶことを目的に、年に 1 回開催するものでござい

高齢福祉課長

ます。

令和5年度は、8月22日に「介護ハラスメントの内容や対応方法について学ぶ」と題し、講師に合同会社エコノモラル代表社員であり、青森県社会福祉士会三八支部長の小泉紀之氏をお招きいたしまして、ご講義をいただきました。

講義の内容は、近年、介護現場において、利用者や家族等による介護職員への暴力、セクシャルハラスメント等が少なからず発生していることが様々な調査で明らかになっているため、現場の負担を軽減するために、介護ハラスメントをテーマとした研修を実施するものでございました。

参加者は市内の特別養護老人ホームや有料老人ホーム、通所系サービス、訪問系サービス等の職員58名が受講いたしました。

今後も、高齢者虐待の早期発見、防止及び対策のためにニーズを捉え、研修を実施してまいります。以上でございます。

事務局

次に、基本施策2「相談支援体制の充実と適切な情報発信」では、14事業を掲載しています。

38ページ上段をご覧ください。資料No.55「障がい者相談支援事業」について、担当の障がい福祉課からご説明いたします。

障がい福祉課長

それでは、事業No.55「障がい者相談支援事業」についてご説明いたします。

この事業は、障がい者が地域で自立した生活を営むことができるよう、専門の相談員が障がい者等からの相談に応じ、障がい福祉サービスの利用支援や権利擁護のために必要な情報の提供及び援助を行う事業でございます。

当事業は資料に記載しております3法人に委託し実施しており、令和5年度実績は、3法人の合計で3,173人からの相談に対応しております。

当事業による障がい者等の相談に応じることで、障がい者が積極的に福祉サービスを利用できているものと考えております。説明は以上でございます。

事務局

次に、基本施策3「課題解決に向けたネットワークの構築」では、5事業を掲載しています。

45ページ上段をご覧ください。事業No.67「生活支援体制整備事業」

事務局

高齢福祉課長

について、担当の高齢福祉課からご説明いたします。

事業 N. 67「生活支援体制整備事業」についてご説明をさせていただきます。

事業概要でございますが、地域における社会資源の開発、地域関係者のネットワークの構築、高齢者のニーズと生活支援サービスとの取り組みのマッチング等を行う生活支援コーディネーターを市及び市内 12ヶ所の高齢者支援センターに配置しております。

また、生活支援コーディネーターの活動を補完し、多様な活動主体間の情報共有及び連携・協働による体制の整備を推進することを目的に、第 1 層協議体として、八戸市生活支援体制整備推進協議会を開催しております。

さらに、住民ニーズの把握や地域における自助や互助の取り組みを推進することを目的に、第 2 層協議体として、地域住民等を対象としたワークショップを開催しております。

取組実績ですが、生活支援コーディネーターにつきましては、市全体の本事業の実施に向けた対応を行う第 1 層コーディネーターを市に 3 名、地域レベルで活動する第 2 層コーディネーターを 12ヶ所の高齢者支援センターにそれぞれ 2 名ずつ、計 27 名配置してございます。

また、第 1 層協議体である八戸市生活支援体制整備推進協議会を 2 回開催いたしました。

さらに、第 2 層協議体であるワークショップを 2 回、下長地区及び江陽地区を対象に開催をいたしました。

今年度も地域における支援体制の充実・強化及び高齢者の社会参加を図ることを目的に、引き続き生活支援サービスを担う事業主体や地域住民等と連携しながら、本事業を実施してまいります。以上でございます。

事務局

次に、基本施策 4「再犯防止策の推進」では、4 事業を掲載していません。

48 ページ下段をご覧ください。事業 No. 74「協力雇用主への入札優遇措置」について、担当は契約検査課になります。

【資料に基づき事業概要と取組実績を説明】

以上で、基本目標 2 に掲載されている主な事業の実施状況について

説明を終わります。

続きまして 49 ページをご覧ください。

基本目標 3 の地域で支え合い、安心して暮らせる地域づくりでは、4 施策 45 事業を掲載しています。

まず、基本施策 1 「防災・防犯対策の充実」では 16 事業を掲載しています。

下段の事業 No. 75 「避難行動要支援者事業」について、担当は福祉政策課になります。

【資料に基づき事業概要と取組実績を説明】

次に、基本施策に住民主体による支え合い、18 事業を掲載しています。

62 ページ下段をご覧ください。事業 No. 97 「民生委員・児童委員活動の推進」について担当は福祉政策課になります。

【資料に基づき事業概要と取組実績を説明】

次に、基本施策 3 「ボランティア・NPO 活動の活性化」では 5 事業を掲載しています。

68 ページをご覧ください。事業 No. 107 「「元気な八戸づくり」市民奨励金制度」については、担当は市民連携推進課になります。

【資料に基づき事業概要と取組実績を説明】

基本施策 4 「暮らしやすい生活環境整備」では 6 事業を掲載しています。

72 ページ上段をご覧ください。事業 No. 113 「福祉バス運営事業」について、担当は福祉政策課になります。

【資料に基づき事業概要と取組実績を説明】

以上で、基本目標 3 に掲載されている主な事業の実施状況について説明を終わります。

続きまして 73 ページをご覧ください。

基本目標 4 の「思いやりの心と人づくり」では 3 施策、17 事業を掲載しています。

まず、基本施策 1「担い手の育成支援」では、9 事業を掲載しています。

74 ページ下段をご覧ください。事業 No.67「ゲートキーパー研修の開催」について、担当は保健予防課になります。

【資料に基づき事業概要と取組実績を説明】

次に、基本施策 2「福祉教育の推進と福祉意識の醸成」には 6 事業を掲載しています。

77 ページ上段をご覧ください。事業 No. 122「青少年の地域活動の推進事業」について、担当は教育指導課となります。

【資料に基づき事業概要と取組実績を説明】

次に、基本施策 3「世代間交流の実施」では 2 事業を掲載しています。

77 ページ下段をご覧ください。事業 No. 123「地域伝統芸能の後継者養成への支援」について、担当は社会教育課になります。

【資料に基づき事業概要と取組実績を説明】

以上で基本目標 4 に掲載されている主な事業の実施状況について、説明を終わります。

続きまして、78 ページをご覧ください。77 ページまでの事業実施状況シートの「事業の進捗状況」と、「自己評価」の部分について、全事

業の集計結果を掲載しております。

まず、78 ページ上段の「事業の進捗状況」をご覧ください。

各事業では「評価基準」に基づき、事業担当課による評価を行い、その集計結果を掲載しております。

◎の「予定どおり実施できた」と○の「おおむね予定どおり実施できた」の合計が全体で 95%を超えております。

また、「未実施」の事業が 4 件ございますが、外部機関から相談件数の情報提供のみを受ける事業が 1 件、今後、関係機関で調整を行い、体制整備を進める予定の事業が 3 件となります。

次に、「自己評価」についてですが、78 ページ下段をご覧ください。

こちら「評価基準」に基づき、各事業について、事業担当課による評価を行い、その集計結果を公表しています。

Aの「想定どおりの実施効果・成果が得られた」とBの「おおむね想定どおりの実施効果・成果が得られた」の合計が全体で 95%を超えております。

Dの「評価対象外」の事業が 4 件ございますが、いずれも「事業の進捗状況」でご説明した未実施事業になります。

次に、「評価指標」についてご説明いたします。79 ページをご覧ください。

基本目標ごとに達成状況を測るための「評価指標」を 3 から 6 指標設定し、令和 5 年度までの実績値と、第 4 期計画最終年度における目標値を示しております。

令和 3 年度は、計画期間内ですが、参考値として掲載しております。

なお、84 ページ上段の「行政活動ボランティアの実働数」については、数値が未算出のため、令和 5 年度の数字はございません。

基本目標の 1 から 4 について、評価指標全体で見ますと、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けた令和 4 年度から持ち直し、各数値増加傾向にあります。

一部目標値を上回った事業もあり、各目標の達成に向け、概ね順調に進捗しておりますが、一方で、横ばいや微減の事業もございますことから、現時点では目標値の見直しは行わないこととしたいと考えております。

なお、目標値については、必要に応じて数値の更新などを行ってま

事務局

います。

以上で、第4期八戸市地域福祉計画の令和5年度事業実施状況報告について説明を終わります。

専門分科会長

お疲れ様でございました。

ただ今の事務局からの説明に対し、委員の皆様からご意見・ご質問等をお受けしたいと思います。何かございますでしょうか。どうぞ。

委員

簡単な質問ですが、19ページの障がい福祉課さんの「意思疎通支援事業」で教えていただきたいんですけども、手話通訳者と要約筆記者の派遣に599件と4件とありますけれど、これは普段、市の方においでの方が行くんでしょうか。仕組み的に何人ぐらいいらっしゃるのかというのと、要約筆記というのはやっぱり需要が少ないのでしょうか。その2点を。分からなければ結構です。

専門分科会長

障がい福祉課長、お願いします。

障がい福祉課長

はい、障がい福祉課です。手話通訳の方は原則、市に配置している2名の会計年度職員が行くんですけども、対応できない部分もありますので、そこは市に登録している21名の手話通訳者をお願いしております。

要約筆記の方は、利用者が1名いらっしゃるんですけども、その方だけということで、少ない件数となっております。以上でございます。

委員

ありがとうございます。さっき手話通訳の報告のところで、要望には全部応えられているという話だったので、素晴らしいというか、大事なことだと思いました。どうもありがとうございました。

専門分科会長

他にございますか。委員どうぞ。

委員

はい、よろしいですか。3点ほどお聞きしたいと思うんですけども、1つ目は49ページに「避難行動要支援者事業」というのがございますが、この避難行動要支援者として登録している方の様子というか、例えば、一人暮らしの高齢者であるとか、障がい者の方とかというような内容をお聞きできればというのが1点目です。

委員

併せて、避難行動要支援者の中に、いわゆる成年後見の後見人がついているような方は入っているのかどうかというのをちょっとお聞きしたいのが1つ目です。

2つ目は民生委員・児童委員さんのことなんですけれども、地域福祉を進める上では、とても大事な委員さんではないかなと思っているわけなんですけれども、見てのとおりですね、定員に達していない、欠員が生じているということであるんですけれども、いろいろな対策をされているようではあります。これ要望になるかもしれませんが、ぜひ定員を満たすようにというか、必要な数が委員さんとして任命できるような形にしてもらえたらいいなと思っています。その対策なども、ちょっとあれば教えていただきたいと思います。

それから3つ目なんですけれども、68ページに先ほど説明のあった「元気な八戸づくり」市民奨励金制度」というのがありまして、すごく地域の活性化にとってはいいのかなと思うんですが、これを受けた団体の受けるまでの審査会はあるんですけれども、その後の事業の公表というかですね、それを市民にどういうふうに伝えているかというかですね、それが波及して違う地域でも地域の中でいろんなことが起きてくるんじゃないかなと思うので、お知らせの方法というか、周知の方法をちょっと教えていただければと思います。

専門分科会長

はい、それでは小笠原次長。

福祉政策課長

福祉政策課の小笠原でございます。私の方からは「避難行動要支援者事業」と民生委員さんの件についてお答えいたします。

まず、避難行動要支援者の対象となっている方ということなんですけれども、一応具体的な基準がございまして、まず要介護度3から5の方、身体障害者手帳1級から3級の方、愛護手帳Aをお持ちの方、小児慢性特定疾病の方、それから難病患者さんというところが具体的な基準にはなっているんですが、1人暮らしの高齢者さんとか、これにとらわれず、柔軟に運用してご希望に応じて対象とし、避難行動要支援者名簿に登録しているというような状況でございます。それから、これらの方々に成年後見人の方がついておられるかどうかというところですが、ここまではちょっと我々の方で把握をしていないというのが現状です。避難行動要支援者については以上でございます。

福祉政策課長

続きまして、民生委員さんの成り手不足ということでございますが、これは全国的な課題となっていると認識しております。

現在、八戸市において 92%の充足率なんですけれども、やはり欠員がどの地区においても生じているというのが現状でございます。

近年も、地域の活動への住民の方の意識の低下などがございまして、なかなか劇的に、状況を一変させる方策というのがまだ見出せていないというか、ちょっと難しいのかなというふうに考えてございまして、我々としては、地道に民生委員さんの活動がやりやすくなるようにといったところで努力はしているんですけれども、先般の新たな取り組みとして、いわゆる民生委員さんの制度自体について、周知があまりなされていないんじゃないかというところで、民生委員さんの成り手候補といった方や、民生委員さんに色々ご相談されたい方がいても、やっぱり制度が知られてないというのが一番なのかなというところで、「広報はちのへ」に字面でこういう制度ですよというだけだったんですけれども、ある民生委員さんにご協力いただきまして、顔出しでインタビュー記事を載せて、日頃の活動の内容ですとか、やりがいであるとか、そういったところをご紹介させていただいたりということをやりました。これも続けていって、地道ではあるんですけれども、何とか充足率の向上に努めていきたいと考えてございます。以上です。

専門分科会長

3点目どうぞ。

福祉部長

最後の「元気な八戸づくり」市民奨励金制度」のところでしたけれども、私の方から以前ちょっと担当していたこともあったのでお答えいたしますけれども、採用されるところまではおっしゃったとおり審査を経て、採用されて、実施していただいて、年度が終了した翌年度になりますけれども、公開の形で市長も同席したところで、例えば会場に「はっち」を使ったり、最近ですと「マチニワ」を使って、市民の皆さんがご覧になれるような状況の中で、活動報告会というのを実施しております。その中で、こういうふうな活動をやったんだよというのを自分たちのお口で発表していただくという場面をとっておりますので、ホームページにも当然掲載させていただいていますし、後で遡って見ることもできるような形にもしてございます。以上でございます。

専門分科会長

いかがですか。

委員

ありがとうございます。1 つ目の避難行動要支援者のところで、成年後見人の部分なんですけれど、災害時に後見人がついている被後見人の方が取り残されるという事例があったというようにお聞きしたので、後見人がついているからいいだろうという話になったようなんですけれども、結局後見人の方も被災してしまって、あるいは後見人が複数人を後見しているというような事例があって、後見が必要な人ももしかしたら避難行動要支援者に入るのではないかなと思ったので、そこもちょっと確認をしていただければありがたいなと思いました。以上です。

専門分科会長

他にございますか。はい、委員。

委員

80 ページの中ほどの「民間企業における障害者の雇用率」ですけれども、今、障害者雇用率が、2024 年度から段階的に引き上げられることになっておりまして、2023 年は 2.3%だったのが 2024 年は 2.5%に、2026 年には 2.7%になることとなっておりますので、目標値の見直しももしかしたら必要ではないかなと思いましたので、よろしくお願ひします。

専門分科会長

これは参考としてですね。法律としてはということですね。

専門分科会長

他にございますか。はい、委員。

委員

学校関係者でございます。52 ページの「安全・安心情報発信事業」についてお尋ねしたいのですが、学校の方の「学校安全情報システム」に加入すると、保護者の方に「ほっとスルメール」も配信されるシステムになっているのか、それとは別に「ほっとスルメール」にも加入しなければならないのかというあたりが、保護者の方へ案内がちょっと不足しているような気がして、このチラシのようなものは学校には来ていないのでしょうか。「学校安全情報配信システム」と「ほっとスルメール」が一緒に機能しているのかどうかについて伺いたいです。

福祉部長

システムは別ですね。

委員

「学校安全情報配信システム」に入っても保護者には、市からのクマの情報とか配信されていないんだなというのを感じていたので、別個に入ってくださいという案内をしなければならぬと思うんですけども、学校の方には「ほっとスルメール」のチラシのようなのは、もしかして来ていないんじゃないかと思うので、もしよろしければ案内をしたいなと思っています。

結局、「ほっとスルメール」を私達が見て、また手間をかけて学校の保護者に「学校安全情報」のメールを配信しているというところがあるので、2つが連動していると教頭の手間が省けるなと思っておりますので、ちょっと教えていただければと思います。

専門分科会長

これは要望のようです。

福祉政策課長

私も現状把握できていませんので、危機管理課の方と確認いたしまして、合理的に行くように状況を調べていきたいと思っております。

専門分科会長

はい。他にございませんか。

それでは他にないようですので、議事(1)第4期八戸市地域福祉計画の令和5年度事業実施状況報告について、事務局案のとおり承認することとしてよろしいでしょうか。

それでは了承ということで、この件については終了いたします。

議事2

専門分科会長

次に、議事(2)重層的支援体制整備事業実施計画の概要について、事務局から説明をお願いいたします。

福祉政策課長

はい。議事(2)に入ります前に、委員の皆様には、今回と次回の専門分科会において、重層的支援体制整備事業の実施計画について、ご審議いただきますが、その背景を説明させていただきます。

皆様ご承知のとおり、近年の地域福祉を取り巻く環境は、急速な少子高齢化や人口減少の進展に伴い、住民同士の関係の希薄化が進む中、地域や家庭などの場面において、支え合いの基盤が弱まる一方、例えば「8050問題」や「ダブルケア」に代表されるような、従来の支援の枠組みでは対応が困難な、複雑化・複合化した課題も浮き彫りになってきております。

このような状況を踏まえ、国では、令和3年4月に社会福祉法の改正を行い、地域住民や地域の多様な主体が「我が事」として参画し、世代や分野を超えて丸ごとつながる「地域共生社会」の実現を目指し、その仕組みとして「重層的支援体制整備事業」を、市町村の任意事業として創設しました。

当市におきましても、先程、昨年度の実績を報告しましたが、第4期地域福祉計画において、重層的支援体制整備事業を「検討事業」として掲げており、これまで関係課による庁内勉強会やヒアリングなどを行ってきたところですが、来年度からの移行準備事業の開始を目指し、今後、実施計画を策定することとしております。

委員の皆様には、この計画の内容について、ご審議いただくこととなりますので、よろしくお願いたします。

詳しい内容については、この後、担当より説明させていただきます。

福祉政策課の大川でございます。それでは重層的支援体制整備事業実施計画の概要について、着座にてご説明させていただきます。

まずは、実施計画についてご説明する前に、重層的支援体制整備事業について、改めて資料をもとにご説明いたします。資料4-1の1ページをご覧ください。

【資料4-1に基づき説明】

それでは、次に、今年度策定することになります重層的支援体制整備事業(移行準備事業)の実施計画の策定方針についてご説明いたします。資料4-2をご覧ください。

【資料4-2に基づき説明】

最後に資料4-3をご確認いただきまして、計画の策定スケジュールについてです。

【資料4-3に基づき説明】

福祉政策課

以上で重層的支援体制整備事業実施計画に関する説明を終了させていただきます。

専門分科会長

はい、ありがとうございました。いずれにしても、第2回目の11月25日に原案が上がってきて、それをたたき台として、そこで皆様からご意見をいただいて、修正等して、それからパブリックコメントになるようなことですが、ここまでで何かご質問等ございますでしょうか。よろしいですか。

委員

確認というか、今説明があった資料4-2の2ページの3の(2)でお話のとおりなんですけれども、既存の相談体制や地域づくりに関する事業が、さっきもたくさん紹介していただいたところがあるわけなんですけれども、今回の重層的支援体制整備だと相当かぶるといって、同じような内容のところがたくさんあるような気がするんですね。そうすると、既存の相談体制の部分と今回やっていく重層的支援体制整備の中での整合性というか移行表というか、住み分けとかあるいは、住み分けないのかも含めて、その整理のところはどうなったかというのを教えていただければありがたいなと思います。

リーダーがたくさんいても大変だと思うので、どこが全体的に調整をするとか、全体を把握するとかということが大事だろうと思いますし、そのことがアウトリーチに繋がったり、地域の方々の参加とか、あるいはさっきの民生委員さんの関わりとか、大きく繋がっていくような気がするので、重層的というのは多分、分野だけでなく、地域とか関係者とかそっちも含まれていくような気がするので、その辺の整理をやっていただければいいなという思いでございます。

専門分科会長

要望ですね。はい、小笠原次長。

福祉政策課長

基本的にですね、既存の事業等につきましては、今までどおり実施するといいますか、新たに改めて位置づけるということではなくて、看板の掛け替えではないですけど、整理の仕方として、この重層的支援の方に位置づけてという形になると思います。

先ほど説明の中にもありましたけども、今の体制でも十分上手く回っている部分も多数ございますので、そこをちゃんと整理して、計画の方にまとめていきたく考えてございます。以上です。

専門分科会長

はい。他にございませんか。ないようですので、この議事(2)につきましては、次回に原案が出てまいりますので、その時にまた議論するというので、ただいまの説明については終了といたします。

以上で本日予定しております案件の審議は全て終了いたしました。これでよろしいでしょうか。皆さんから何かありますか。

はい、ではないようですので、これをもちまして議事を終了いたします。ありがとうございました。

閉会

司会

会長ありがとうございました。

次回会議の開催は11月25日月曜日1時半開始を予定しております。

会場は本日と同じ本館3階議会第3委員会室を予定しております。

会議の開催が近づきましたら、委員の皆様には、開催案内と議事の資料を送付いたしますので、内容をご確認くださいようよろしくお願いいたします。

以上をもちまして、令和6年度第1回八戸市健康福祉審議会社会福祉専門分科会を閉会いたします。本日はありがとうございました。